

構 造 特 記 仕 様 書

§1 一 般 事 項

選択項目は◎印を適用し、○印が無い場合は＊印を適用する。
○印が複数有る場合は、共に適用する。

1-1

使用材料は原則としてJIS規格品、又は大臣認定品とする。

1-2

設計図書 の優先順位は下記による。

1) 本特記仕様書

2) 設計図

3) 標準図

○鉄筋コンクリート構造配筋標準図

・鉄骨工作標準図

・鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図

・高強度せん断補強筋施工仕様書

・鉄筋コンクリート壁式標準配筋図

4) 仕様書(○公共建築協会◎日本建築家協会)

5) 日本建築学会標準仕様書、JASS5、JASS6

1-3

各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承認を得る。

1-4

構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。

第三者機関による検査・試験費用は工事費に(＊含む・含まない)

1-5

設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承認を得る。

1-6

梁貫通位置、径、及び箇所数は(＊意匠図・構造図＊設備図)による。

1-7

その他

§2 構造計算ルート

2-1

方 向	構造計算ルート
X	○ルート1・ルート2・ルート3・
Y	○ルート1・ルート2・ルート3・

2-2

鉄筋の継手及び定着

構造計算ルート別による主筋等の継手ね重長さと柱に取り付く梁の定着長さ

◎建築基準法施行令第73条(政令第73条)による仕様規定

○日本建築学会 JASS5 (2015)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説

○日本建築学会 RC規準2010

XY両方向共ルート3及び限界耐力計算の場合は、政令第73条の仕様規定によらずJASS5 (2015)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC規準2010とすることができる。

§3 仮設工事、土工事

3-1

山留め、根切り

3-2

埋戻し土、盛土、残土処分

埋戻し土

◎根切り土の中の良土・搬入良土

盛土

◎根切り土の中の良土・搬入良土

残土処分

・場内地均し◎場外搬出処分(＊自由・指定場所)

§4 地業工事

4-1

基礎及びスラブ下地業 (単位mm)

場 所	※(1) 捨てコンクリート厚さ	A: 砕 石	厚 さ
基 礎	独立・布	◎A・B	*60○100・150・
ベ タ	◎50・60・100	◎A・B	*60○100・150・
地 中 梁	◎50・60・100	◎A・B	*60○100・150・
構造スラブ	*50・60・100	*A・B	*60・100・150・
土間スラブ	屋内	*50・60・100◎A・B	*60○100・150・
	屋外	・50・60・100・A・B	・60・100・150・

注 (1) アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。

(2) 端部aは100以上とする。

4-2

直接基礎

○ベタ基礎・布基礎○独立基礎()

・試験有無・載荷試験有無

設計地耐力 深さ: B1・B2: GL-1.80m 長期許容支持力度 B1・B2: 280 KN/m²
F1・F2: GL-1.15m F1・F2: 280 KN/m²

4-3

地盤改良

・無筋コンクリート地業・締固め工法・ソイルセメント杭・浅層混合処理工法(セメント系固化材投与)・圧密排水工法

[・載荷試験]・行う(2箇所)＊行わない

[・一軸圧縮試験]・行う(3箇所)＊行わない

[・六価クロム溶出試験]・行う＊行わない

4-4

既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭

杭種

・PHC杭

・A種

・B種

・C種

・ST杭

・A種

・B種

・C種

・回転貫入鋼管杭

・

・

・

・CPR杭

・I種

・II種

・III種

・IV種

・V種

・VI種

・節杭

・A種

・B種

・C種

・

2) 工法

・ハイエフイー(HiFB)工法(大臣認定 TACP-0493)

・埋込み工法

・プレボーリングセメントミルク注入工法

・プレボーリング拡大根固め工法(認定工法)

杭周囲定液 ＊あり・なし

・中掘拡大根固め工法(認定工法)

・回転埋設根固め工法(認定工法)

3) 杭径、設計耐力、本数表

杭 径(底部部)mm	長期(kN)	短期(kN)	終局(kN)	本数	備 考

4) 杭の構成は設計図による。

5) 杭頭補強

・かご筋

・スタッド溶接

・杭外周溶接

6) 杭仕様

・施工計画書承認(打撃・圧力又は振動により与けられる基礎杭の打撃力等に対する構造耐力上の安全性を確保するための措置は、建築工事監理指針に従う)

・杭施工結果報告書

4-5

場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭

1) 工法

・アースドリル工法

・掘削アースドリル工法

・リバース工法

・オールケーシング工法(・ベント工法・)

・BH工法

・

2) 杭径、設計耐力、本数表(掘削部は施工径を示す)

杭 径(底部部)mm	管厚mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考

3) 杭先端深さ

SGL- m

4) 孔壁測定(2方向)

＊行う(・全数・%)・行わない

5) 使用材料

コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合JASS5水中コンクリートによる。

コンクリート Fc (・普通ポルトランドセメント・高炉セメントB種)

鉄筋

・D 以下

S_{D295A}

・D 以上

S_{D345}

・D 以上

S_{D390}

鋼管(リブ付)

・SKK400

・SKK490

4-6

杭打地業共通事項

1) [・杭長決定用先行杭・試験掘]・行う(本)＊行わない

2) 載荷試験・行う(箇所、長期設計耐力の3倍を確認する)＊行わない

3) S_L散布・行う＊行わない

§5 鉄筋工事

5-1

材種

種 類	径	継 手
○SD295A	D 16 以下	◎重ね継手・スパイラル・工場溶接
○SD345	D 19 以上	・重ね継手◎溶接継手・機械継手(級)
・SD390	D 29 以上	＊溶接継手・機械継手(級)
・SD490	D 以上	＊溶接継手・機械継手(級)
・溶接金網		・重ね継手
・高強度せん断補強筋	・1275級 P	・重ね継手・スパイラル・工場溶接
	・785級 K	
	・685級 UD UR	

溶接継手 ＊ガス圧接・突き合せ溶接(D16以下は重ねアーク溶接でも可)

溶接部の検査(第三者機関による)

・抜取り検査

・引張り試験(JISZ3120)

1検査ロットにつき ＊3本・原則柱・梁の径毎に3本

○超音波探傷試験(JISZ3062)

・熱間押抜き試験

1検査ロットにつき ○30箇所・

・不合格となった溶接部は切り取って再溶接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。

1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した溶接箇所の数量で200箇所以内

5-3

梁貫通補強

補強筋は原則として工場製品(評定品)を使用する。

5-4

その他

基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として○①一般・②地反力を受けるとする。

鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。

コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。

コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§6 コンクリート工事

6-1

設計基準強度 (N/mm²)

1) セメント

◎普通ポルトランドセメントJISR5210

・高炉セメントB種

・低熱ポルトランドセメントJISR5210

・

2) 粗骨材

・砂利◎碎石

・高炉スラグ骨材

・人工軽量骨材

・再生骨材

最大径(mm) ◎20・25・40

3) 躯体 (使用区分は設計図の軸組図に示す)

○普通コンクリート

・Fc18

・Fc21

○Fc24

・Fc27

・Fc30

・Fc33

・Fc36

・軽量コンクリート(＊1種・2種

気乾単位容積質量 ＊18.5・)

・LFC18

・LFC21

・LFC24

・LFC27

・LFC30

・LFC

4) 土間コンクリート・Fc 18

○Fc 21 (ただし柱、壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする)

5) 捨てコンクリート○Fc 18

6) ラップコンクリート・Fc 18

7) かさ上げコンクリート・Fc・LFC (気乾単位容積質量 ＊18.5・)

混和材 ＊AE減水剤・高性能AE減水剤・躯体防水材・膨張材

6-2

6-3

箇 所	基礎、地中梁	一般部			
スランブ	cm	15	15		
水セメント比	%	50以下	50以下	50	以下
単位水量	kg/m ³	185以下	185以下	185	以下
単位セメント量	kg/m ³	270以上	270以上	270	以上

[スランブ 空気量]

6-4

試験 (躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)

1) 骨材

[○塩分含有量○アルカリシリカ反応性]＊行う・行わない

2) フレッシュコンクリート[○スランブ○空気量]＊行う・行わない

3) 躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験＊行う・行わない

4) コンクリートコア抜き取り圧縮試験・行う＊行わない

5) マスコンクリートのひび割れ照査(温度応力解析)・行う＊行わない

6-5

調査 (補正値は工事費に含む)

計画供用期間の級()は耐久設計基準強度F_d

・短期(18)＊標準(24)・長期(30)・超長期(36)

調査管理強度 F_m=Max (F_c, F_d)+S S=3

材齢28日の調査強度Fは下記の両式を満足するものとする。

F≥F_m+1.73σ F≥0.85F_m+3σ

6-6

せき板及び支柱の在置期間 (普通ポルトランドセメントの場合)

	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁 下
コンクリートの	15℃以上	3日	17日
材齢によ	5℃以上	5日	25日
る場合	0℃以上	8日	28日
圧縮試験による場合	5N/mm ²	0.85Fcまたは12N/mm ²	設計強度

6-7

住宅性能表示

劣化等級 ・等級2・等級3

劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)2-7かぶり厚さが変わる場合があるので注意すること。

6-8

Fc60を超える高強度コンクリートは別記特記仕様書による。

§7 鉄骨工事

7-1

材種及び使用箇所

規 格 名 称	鋼 材 名	柱	通し	17	17	大梁	ブレース	小梁、横
一般構造用圧延鋼材	・SS400・							
溶接構造用圧延鋼材	・SM400A・SM490A							
建築構造用圧延鋼材	・SN400A・SN490B・SN400C・SN490C							
一般構造用角形鋼管	・STKR400・STKR490							
冷間成形角形鋼管	・BCR295・BCP235・BCP325							
熱間成形角形鋼管	・SHC400B・SHC400C・SHC490B・SHC490C							
一般構造用炭素鋼管	・STK400・STK490							
一般構造用軽量鋼	・SSC400・							

7-2

高力ボルト

高 力 ボ ル ト の 種 類	使 用 箇 所
トルシア形高力ボルト	＊S10T 全般
JIS形高力ボルト	・F10T トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	・F8T 母材が亜鉛メッキされている部分

7-3

普通ボルト、アンカーボルト

1) 材質

・SS400・SS490 (M 以上)

・ABR400・ABR490・ABM400・ABM490 (ABMはM24以上)

2) 大臣認定柱脚(メーカー仕様による)・使用する・使用しない

7-4

頭付きスタッド

径	長 さ (mm)	使 用 箇 所
16φ	・80・100・120・150・	
19φ	・80・100・120・150・	
22φ	・100・120・150・150・	

7-5

溶接材料

1) アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選定する。

2) ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。

7-6

7-7

スカラップ形状 ＊スカラップ工法・ノンスカラップ工法

継手

	柱	梁
フランジ	・高力ボルト・現場溶接	＊高力ボルト・現場溶接
ウェブ	・高力ボルト・現場溶接	＊高力ボルト・現場溶接

7-8

溶接手法及び管理

使用する溶接ワイヤー、入熱量及びバス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。

7-9

デッキプレート (単位 mm)

1) 床用

高さ・

板厚・

2) 合成スラブ用

高さ・

板厚・

3) 型枠用

高さ・

板厚・

形板 タイプ

4) 防錆処理

・プライマー・亜鉛メッキ・Z12・227

7-10

錆止め塗装(工場塗 ＊2回・1回、現場タッチアップ程度とする)

1) 素地こしらえ ＊ケレン・プラスト

2) 錆止め塗料

適用	塗 料	種 別	標準膜厚
室外	室内		
・	＊鉛、クロムフリー錆び止め	JISK5674	35μm
・	・一般用錆止めペイント	JISK5621	
・	・鉛丹錆止めペイント	JISK5622	
＊	・シアナド鉛錆止めペイント	JISK5625	

3) 溶融亜鉛メッキ・行う・行わない

7-11

溶接部の検査(受入検査)＊行う・行わない

1) 受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者(元請)との直接契約による。

2) 第三者検査機関は(社)日本溶接協会によるC1W検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。

3) 受入検査は目標による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。

4) 外観検査の合格判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2007 付則6 鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。

5) 超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」2008により、合格判定は7.2.1疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。

6) 溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2007」表5.1溶接箇所数の数え方による。

7) 受入検査の抜取り方法及び抜取り率は以下による。

a) 工場溶接の場合

i. 検査ロットは各部、各工区毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。

ii. 抜取り数は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。

iii. サンプリングの結果、不合格率が5%以内の場合はロットを合格とし、不合格率が5%を超えた場合は更に同一ロットの中から30箇所をサンプリングし、合計60箇所の不合格率が5%以内の場合を合格とする。不合格率が5%を超えた場合は残り全数の検査を行う。

b) 現場溶接の場合

i. 全数検査とする。

8) 検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。

9) ずれ・食い違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口の検査・補強マニュアル」等を参考にする。

7-12

鉄骨製作工場

国土交通省大臣認定(グレード)					
S	H	M	R	J	・

§8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事

8-1

コンクリートブロック

1) 種類

・A種

・B種

○C種

2) 厚さmm

○100

・120

・150

・190

8-2

ALCパネル

1) 使用箇所

・床

・屋根

・外壁

・内壁

2) 厚さmm

・75(80)

・100

・120

・150

・175

3) 外壁取り付け構法

方 向	構 法	使 用 箇 所	備 考
縦	・スライド構法		
	・ロッキング構法		
横	・カバープレート構法		
	・ボルト止め構法		

8-3

押出成形セメント板

外壁取付構法及び厚さmm

方 向	構 法	使 用 箇 所	備 考
縦	・ロッキング構法		
	・スライド構法		

8-4

PCa板

1) 床及び屋根

・床

・屋根

・PCa板単独

厚さmm

・

・合成板

PCa板厚さmm	現場打厚さmm	合計厚さmm	備 考

2) 外壁

厚さmm

・

・

備考	

S

有限会社 三成工業

TEL: 098-974-8001 沖縄県うるま市宇字堅1322-1
TEL: 098-974-8059 代表取締役 平川 薫

工事名称	具志川運動公園多目的広場建設工事(建築)
工事場所	うるま市宇大田地内

管理者	設計者
日付	日付

担当者	図面名称
日付	構造特記仕様書
日付	縮尺
日付	NO-SCALE

図面NO
S-01

壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (WRC造)

1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号
d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値 D…部材の成 R…直径 h₀…部材間の内法高さ S.HOOP…補強帯筋
e…間隔 r…半径 C…中心線 l₀…部材の内寸法距離 φ…直径 ST…あばら筋 HOOP…帯筋
- (3) 本標準図に関して工事監理者の承認を受けた場合はその限りではない。

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折まげ角度90°はスラブ筋、壁筋の末端部またはスラブと両端に打ち込むT形および形梁のキャップタイにのみ用いる。 ※片持スラブ、上端筋の先端
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	

鉄筋は、SD295A、SD295B、SD345を使用する。
折曲げ内寸法Rは、16以下は、3d以上、D19以上は4d以上

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋折り曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内のり寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SD295A SD295B、SD345	D16以下 D19以上	3d以上 4d以上
	上記以外の鉄筋	SD295A SD295B、SD345	D16以下 D19~D25	4d以上 6d以上

(3) 鉄筋の定着及び重ね継手長さ

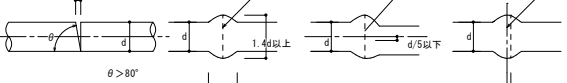
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm²)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ(L ₁)
		一般(L ₀)	下ば筋(L ₀) 小梁 スラブ	
SD295A SD295B SD345	21 22.5 24 18	40d または 30d フックつき 40d または 30d フックつき	25d または 15d フックつき 10d かつ 15cm以上	40d または 30d フックつき 45d または 35d フックつき

コンクリートは普通F₀=18N/mm²以上24N/mm²以下、軽量F₀=18N/mm²以上22.5N/mm²以下

継手

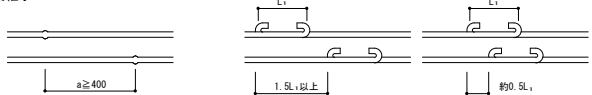
- 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする

ガス圧接形状



圧接継手

重ね継手(下図のいずれかとする)



(4) 鉄筋のかぶり厚さ(単位: mm)

構造部分	最小かぶり厚さ(mm)	設計かぶり厚さ(mm)
屋根スラブ・床スラブ・片持ちスラブ…・耐力壁	20	30
耐力壁・壁梁・小梁・片持ち梁	30	40
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎つなぎ梁	40	50
基礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

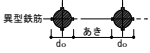
【注】 * 耐久性上有効な仕上げが無い場合には、屋内・外にかかわらず10mm増しとする。

又、軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。

** 片持ちスラブ先端は、最小かぶり30mmとする。【8-(1)の④参照】

(5) 鉄筋のあき

- 異型鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上
- 粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上

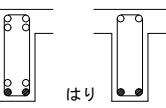


印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要

(6) 鉄筋のフック

(a-f)に示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

- 壁長が1m以下の壁横筋の末端
- あばら筋、帯筋
- 煙突の鉄筋
- 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分の鉄筋(右図参照)
- 単純梁の下端筋
- その他、本配筋標準に記載する箇所



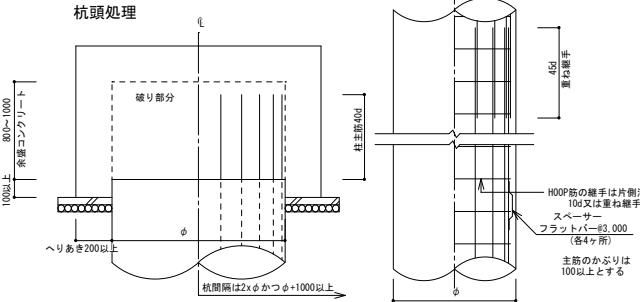
3. 杭

(地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)

(1) PC杭、又はPHC杭全てに補強を行う

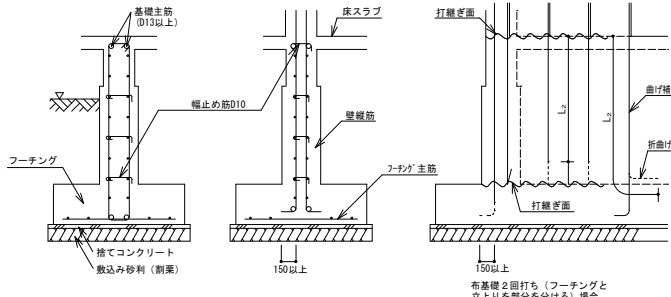
所定の位置に止まった場合			所定より低く止まった場合		
杭 径	300φ、350φ	400φ	450φ	500φ	600φ
補 強 筋	6-D13	8-D13	10-D13	8-D16	10-D16
H O O P			D10-@150		

(2) 現場打ちコンクリート杭

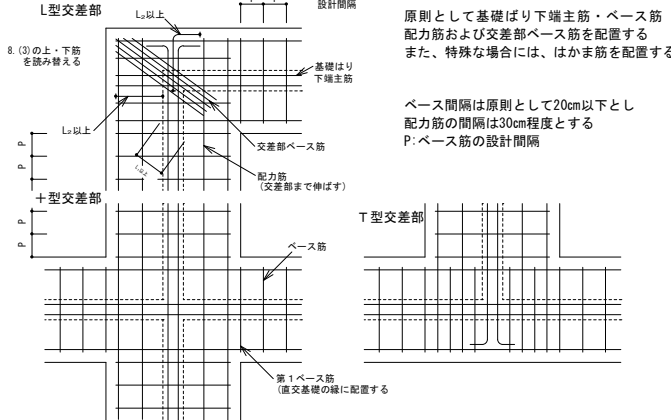


3. 基礎

(1) 布基礎



布基礎交差部の配筋(平面)

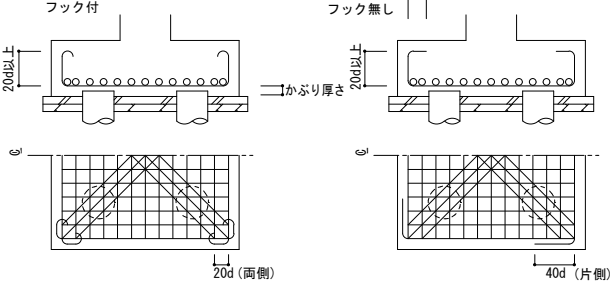


原則として基礎ばり下端主筋・ベース筋配力筋および交差部ベース筋を配置する
また、特殊な場合には、はかま筋を配置する

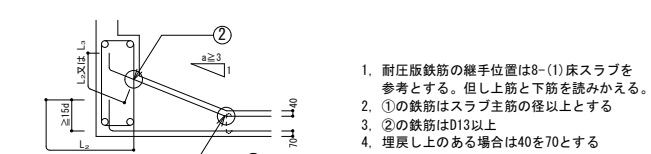
ベース間隔は原則として20cm以下とし
配力筋の間隔は30cm程度とする
P:ベース筋の設計間隔

T型交差部

(2) 杭基礎

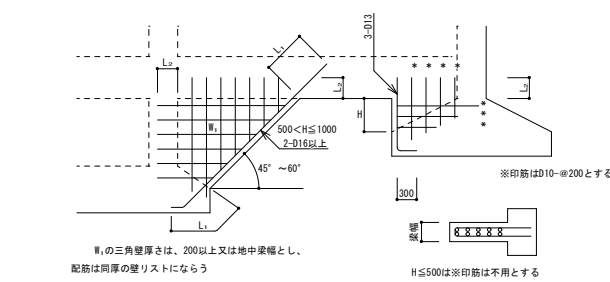


(3) ベタ基礎



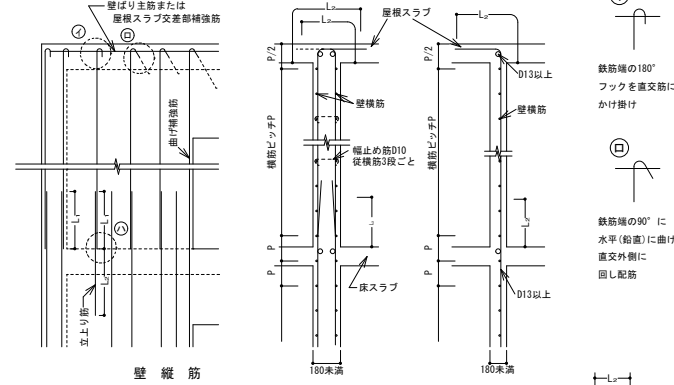
- 耐圧版鉄筋の継手位置は8-①床スラブを参考とする。但し上筋と下筋を読みかえる。
- ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
- ②の鉄筋はD13以上
- 埋戻しの上のある場合は40を70とする

(4) 基礎接合部の補強



3. 耐力壁

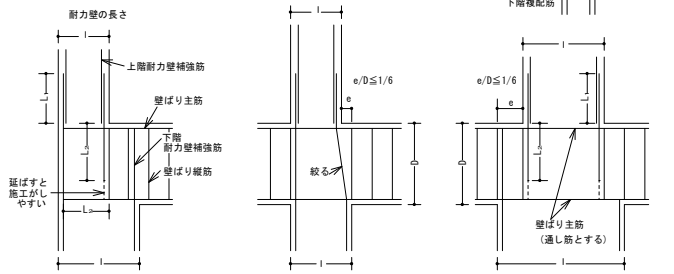
(1) 縦筋・曲げ補強筋・縦補強筋の定着



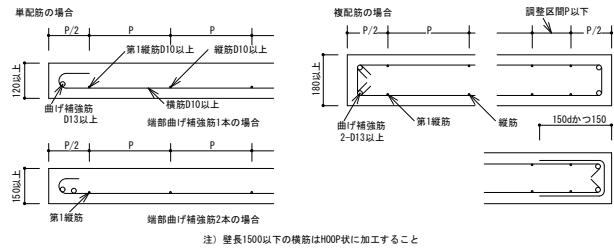
耐力壁と床・屋根スラブ



(2) 上・下階耐力壁の各種配置

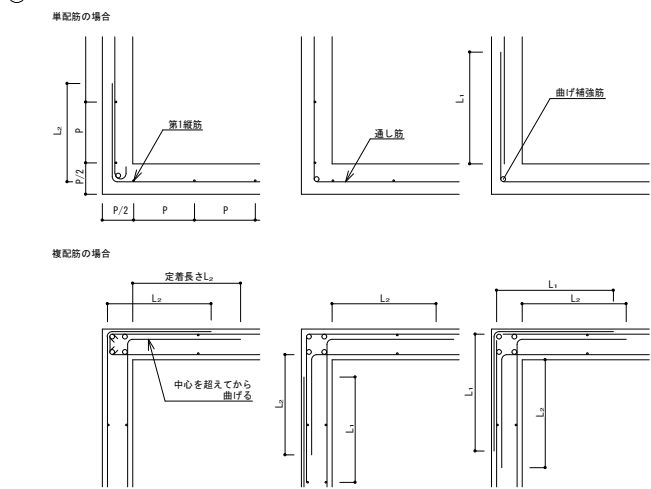


(3) 耐力壁の縦・横筋の配置

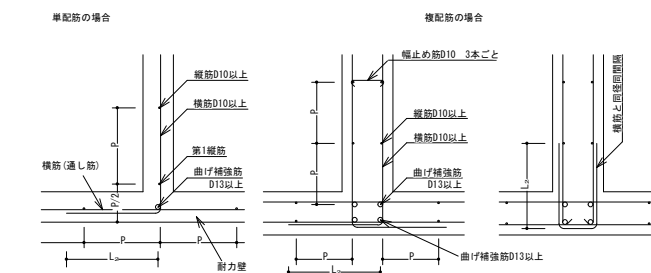


(4) 耐力壁が交差する場合(平面)

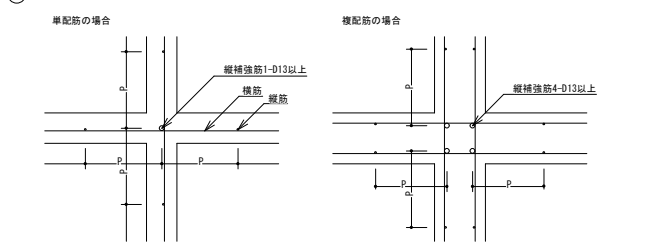
L型交差部の縦・横筋などの配置



T型交差部の縦・横筋の配置



+型交差部の縦・横筋などの配置

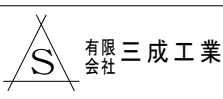


6. 使用可能な鉄筋の最大径(標準)

部位	耐力壁	壁がりよう小梁	梁基礎基礎梁	布基礎基礎基礎梁	スラブ	非耐力壁	塀
構造種別	耐力壁	壁がりよう小梁	梁基礎基礎基礎梁	布基礎基礎基礎梁	スラブ	非耐力壁	塀
壁式鉄筋コンクリート造	D22	D22	D25	D16	D16	D16	D16

株式会社 創設計
伊波 克之
一級建築士 第224803号
構造設計一級建築士 第9039号

備考



TEL : 098-974-8001 沖縄県うるま市宇字堅1322-1
TEL : 098-974-8059 代表取締役 平川 薫

工事名称 具志川運動公園多目的広場建設工事(建築)

工事場所 うるま市宇大田地内

管理者 設計者 担当者

日付 日付 日付

図面名称 壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

縮尺 NO-SCALE

図面NO

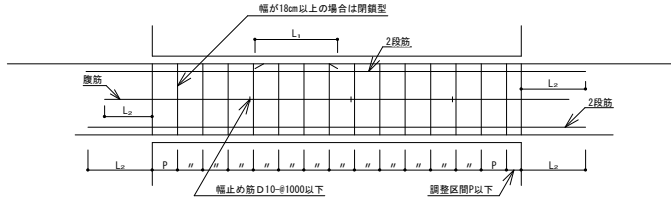
S-02

壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2) (WRC造)

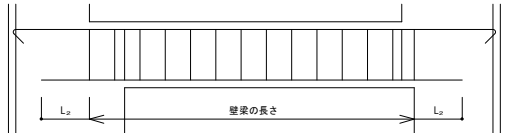
L=鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-3による。

7. 壁梁、小梁

(1) 壁梁の標準配筋図

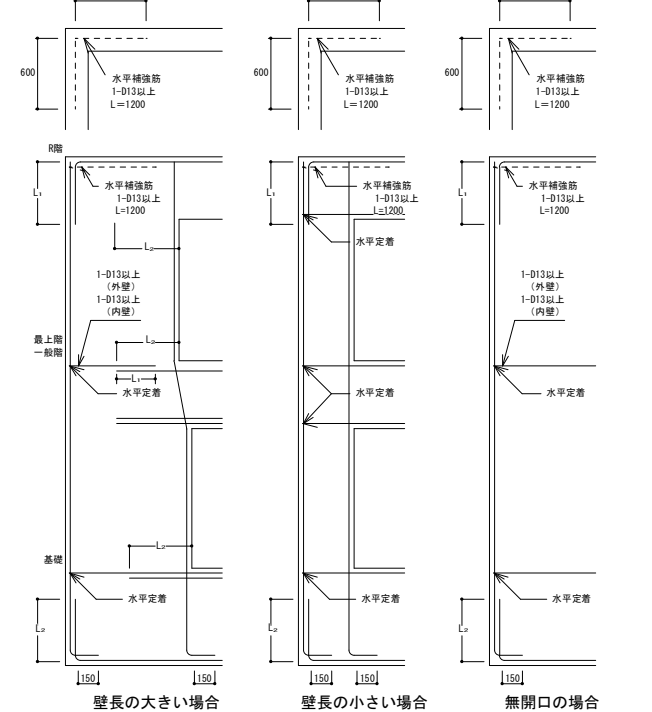


(2) 壁梁の範囲

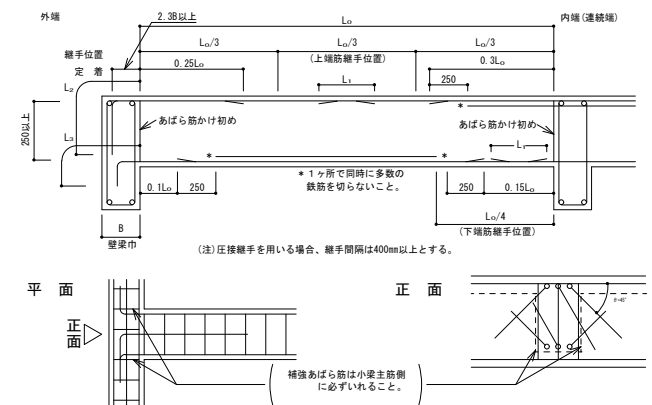


(3) 定着

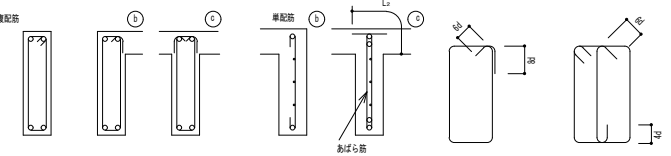
㊦ 壁梁



㊦ 小梁の定着・継手位置およびトップ長さ

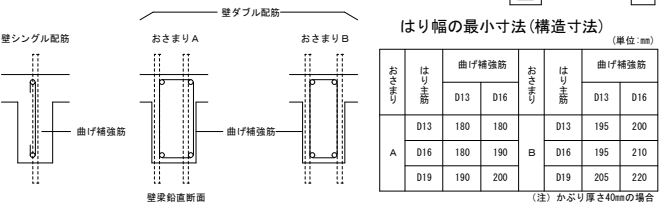


(4) あばら筋の型



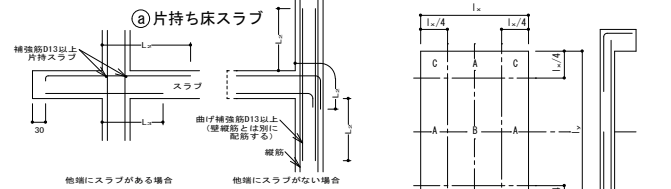
- (イ) 原則として㊦のフック先曲げとする。
片側床板付(L型)梁で㊦、
両側床板付(T型)梁で㊦とすることができる
(ロ) フックの位置は㊦にあつては交互、
㊦にあつてはスラブ側とする。

- (5) 幅止め筋の本数、加工
壁梁の幅は耐力壁の厚さ以上とする



8. 床板

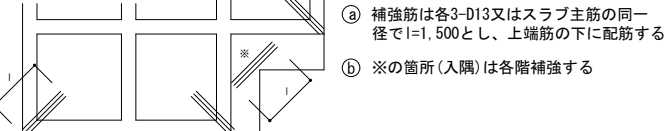
(1) 定着および継手



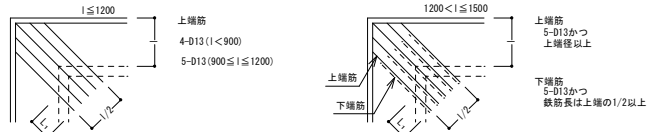
継手位置は原則として下表による。

標準継手位置		
上端筋	端辺方向	B
下端筋	長辺方向	B
下端筋	短辺・長辺方向	A C

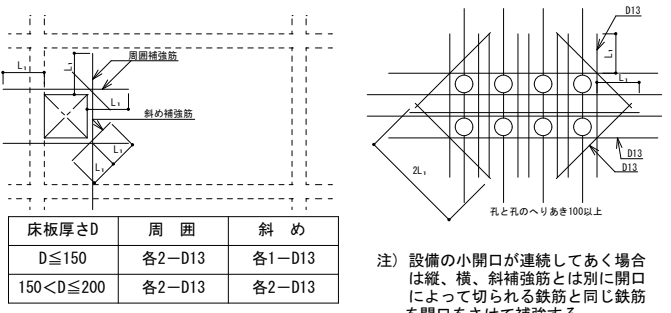
(2) 屋根スラブの補強



(3) 片持ちスラブ出隅部補強



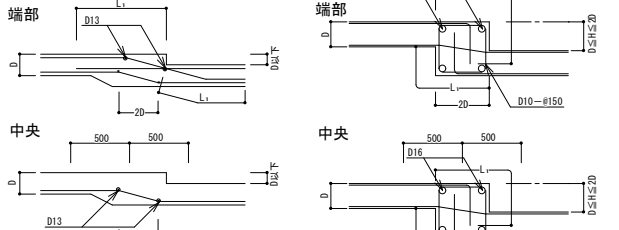
(4) 床板開口部の補強(開口の径500程度の場合)



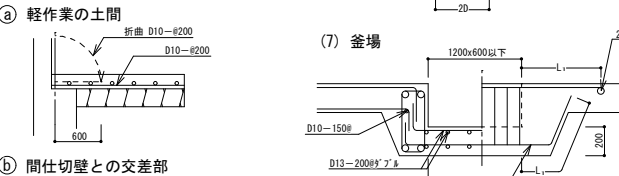
床板厚さD	周 囲	斜 め
D≤150	各2-D13	各1-D13
150<D≤200	各2-D13	各2-D13

注) 設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切られる鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

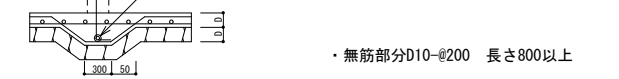
(5) 床板段差



(6) 土間コンクリート

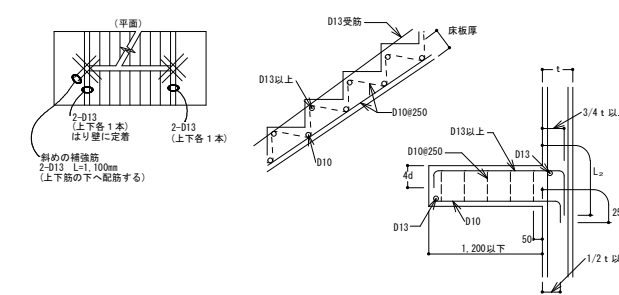


(7) 釜場



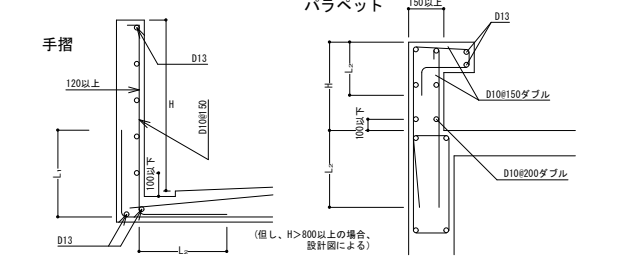
9. 階 段

片持ち階段

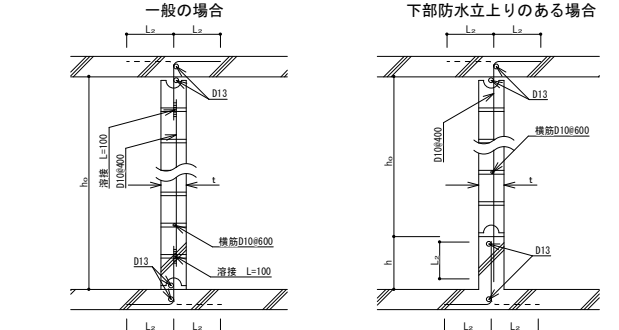


10. その他

(1) 手摺、パラベット



(2) コンクリートブロック帳壁 一般の場合



注) $h_0 \leq 25t$ かつ3500以下とする。但し直交方向25t以内に壁、又は柱がある場合は除く。
注) h はコンクリートブロック段数調節寸法とする。但し、 $200 \leq h \leq 400$
注) 鉄筋挿入部はモルタルを充てんすること。

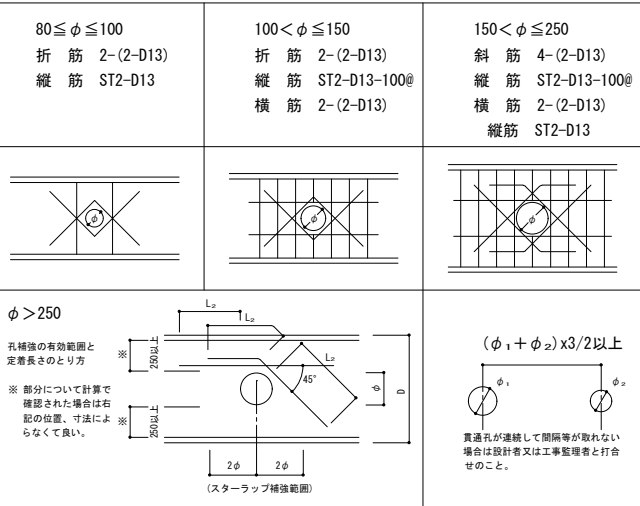
11. 梁貫通孔補強

(3) 既製品 (使用するときは、設計者又は工事監理者と打合せのこと)

□ リング型 □ パイプ型 □ 金網型 □ プレート型 □

(2) 鉄筋標準配筋 但し、 $\phi \leq D/3$ とする

設置可能範囲 梁幅(スパン1/10以内かつ20以内)は避ける

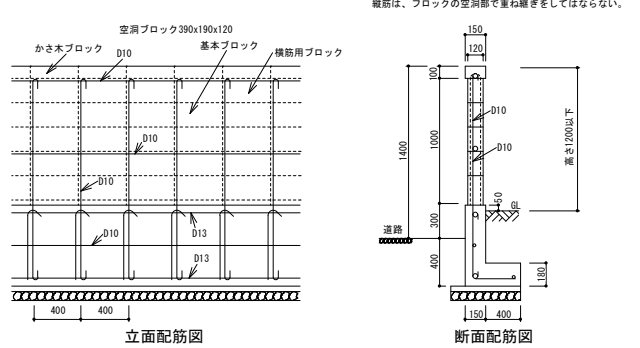


12. コンクリートブロック塀

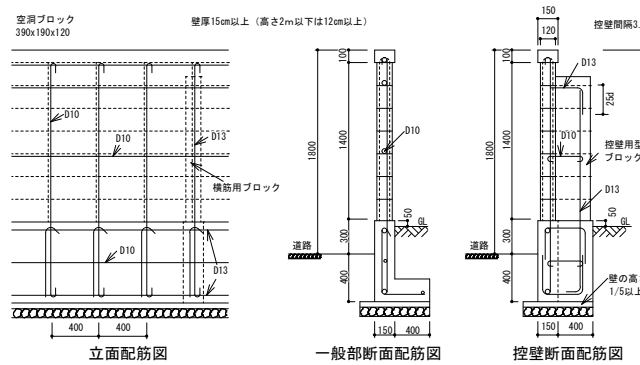
(1) ブロック塀の高さ・厚さと基礎の構造

- a. 塀の高さ(地盤面に高低差がある場合は低い方による)は2.2m以下。
b. 塀の厚さは、塀の高さ2m以下の場合は12cm以上、2mを超える場合は15cm以上。
c. 地盤が液状化の恐れのある砂質土および軟弱土の場合は別途検討する。
d. 鉄筋挿入部はモルタルを充てんすること。

控え壁のない塀例



控え壁のある塀例



株式会社 創設計
伊波 克之
一級建築士 第224803号
構造設計一級建築士 第9039号

備考

有限三成工業
会社

TEL: 098-974-8001
TEL: 098-974-8059

沖縄県うるま市宇字1322-1
代表取締役 平川 薫

工事名称

具志川運動公園多目的広場建設工事(建築)

工事場所

うるま市宇大田地内

管理者

設計者

担当者

図面名称

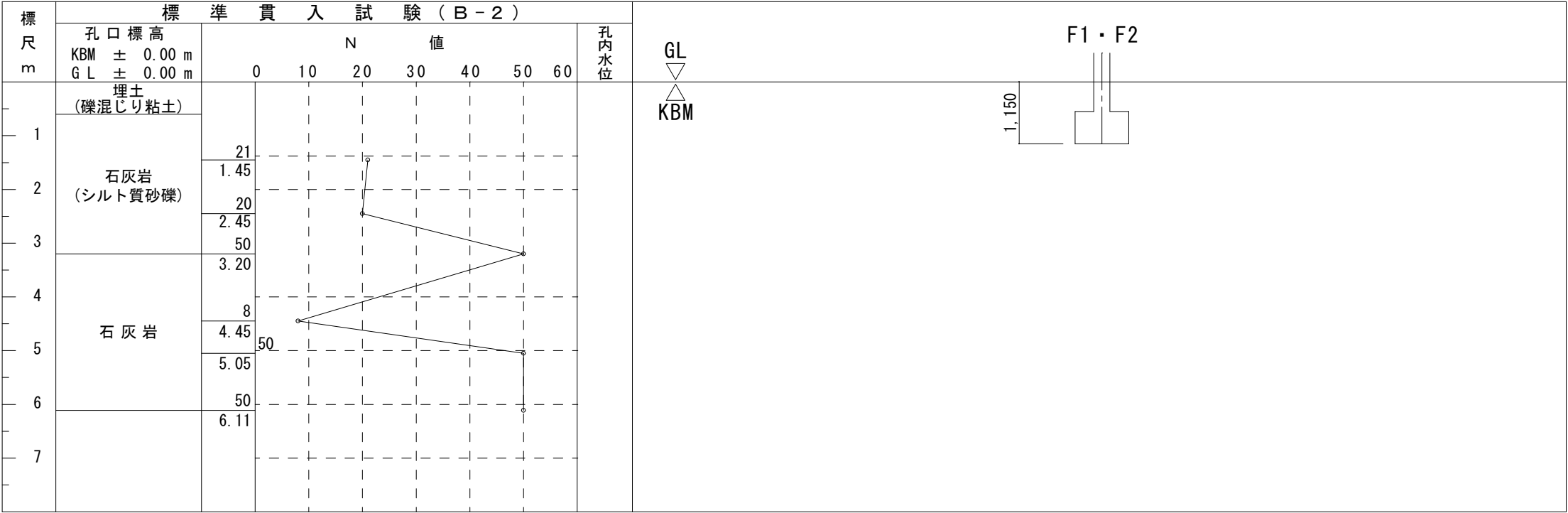
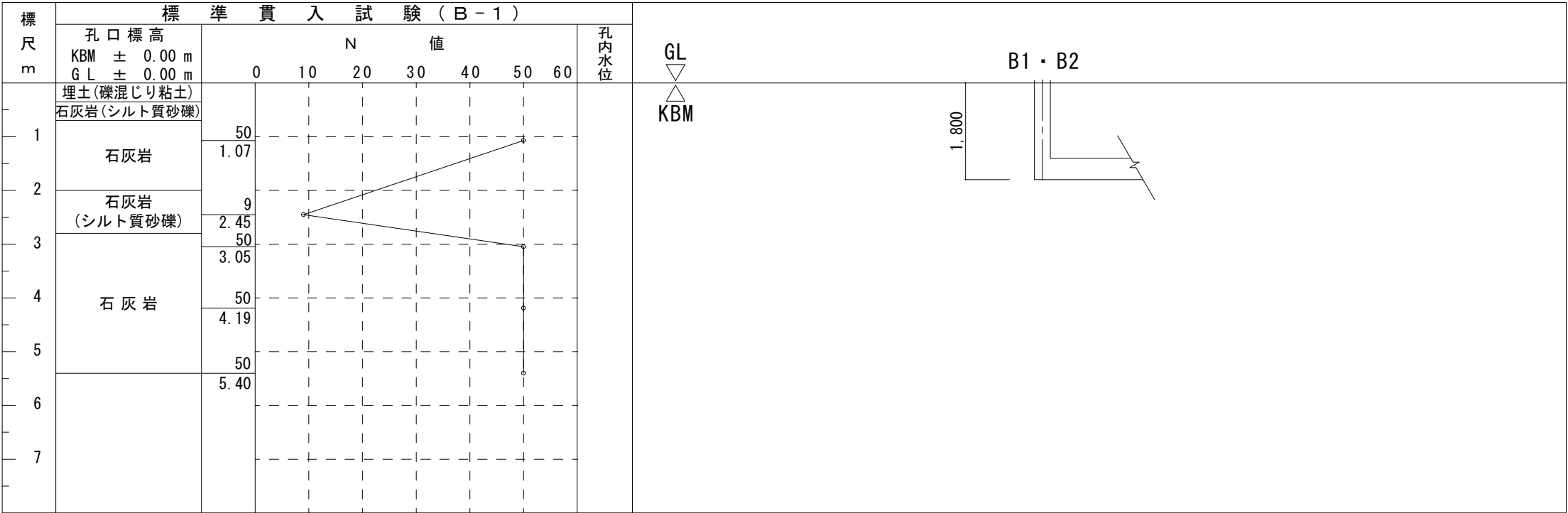
壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

縮尺

NO-SCALE

図面NO

S-03

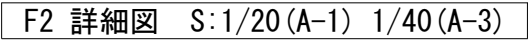




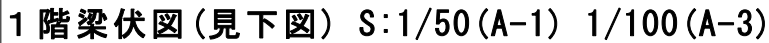
▽地梁天端
△G L

150
100
50
1,850
1,800
50
400
B1, B2

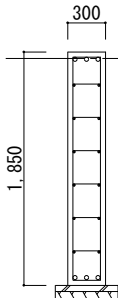
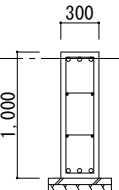
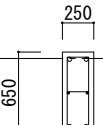
B1, B2 詳細図 S: 1/20 (A-1) 1/40 (A-3)



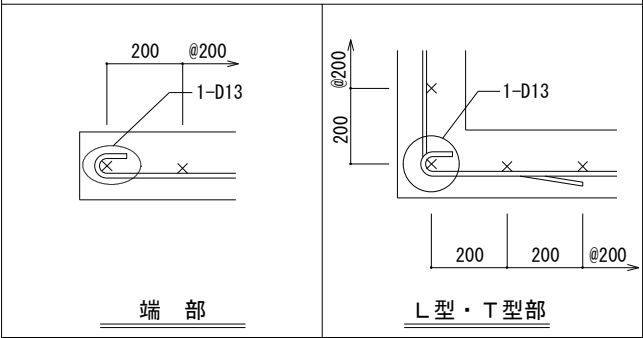
構造設計	株式会社 創設計 伊波 克之 一級建築士 第224803号 構造設計一級建築士 第9039号
------	---



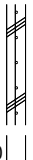
地中梁 断面リスト S:1/30(A-1) S1/60(A-3)

符 号 位 置		FG1	FG2	FB1
		全断面	全断面	全断面
梁天端  GL 断 面				
上端筋	1段筋	3-D22	3-D22	2-D22
	2段筋	—	—	—
下端筋	2段筋	—	—	—
	1段筋	3-D22	3-D22	2-D22
あばら筋		□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@200
腹筋		12-D10	4-D10	2-D10

壁端部曲げ補強筋 詳細図 S:1/10(A-1) S1/20(A-3)



壁リスト S:1/30(A-1) S1/60(A-3)

符号	W 1 5			
	全断面			
縦断面	 150 □ シングル配筋			
	縦筋	D 13 @ 200		
横筋	D 13 @ 200			
補強筋	縦	2-D 13		
	横	2-D 13		
	斜め	2-D 13		
幅止め筋	—			

スラブリスト

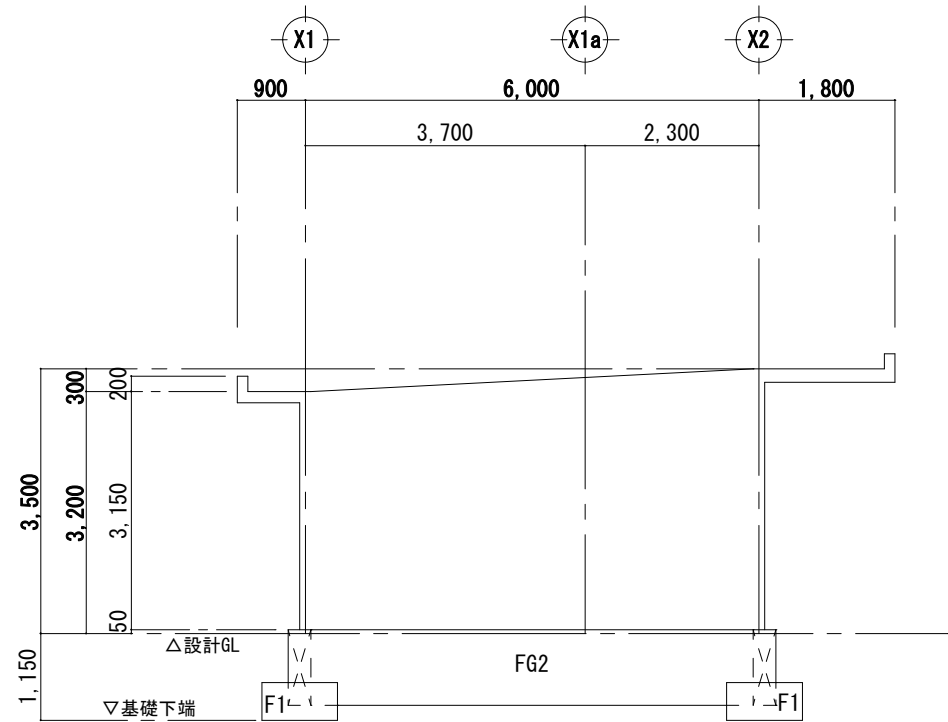
符 号	スラブ厚	方向	短辺（主筋）	長辺（配力筋）
FS1	150mm	上端筋 下端筋	D13 @200 D10 @200	D10 @200 D10 @200

- ・ 土間コンクリートを示す。
($t=100$ D10@200 シングル)
- ・ 特記なき は、RC部の壁(W15)を示す。
- ・ は、壁端部曲げ補強筋を示す。(詳細図参照)

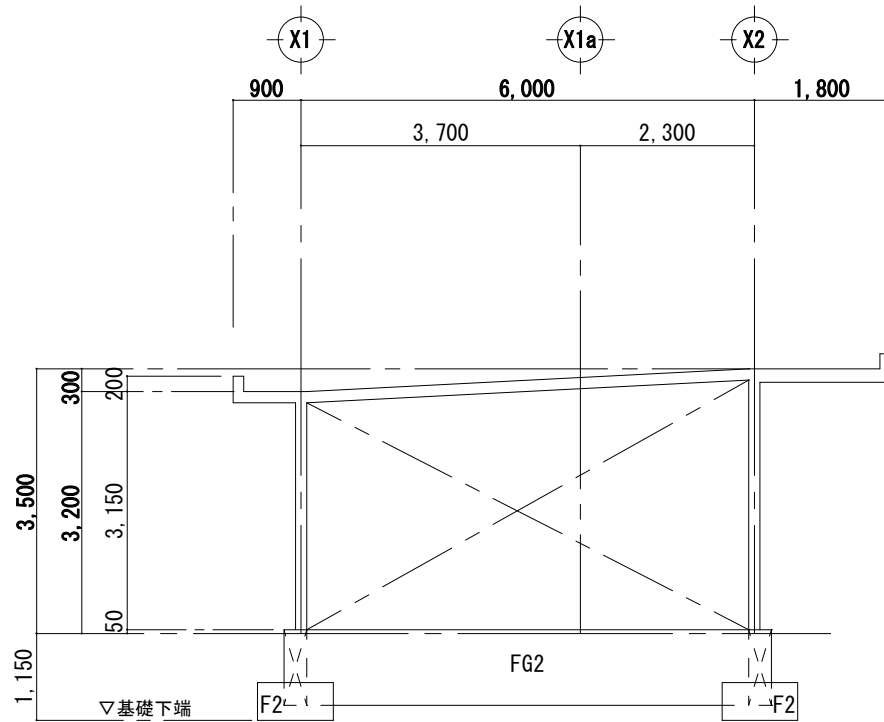
備考	 有限 三成工業 会社 TEL : 098-974-8001 沖縄県うるま市宇堅1322-1 TEL : 098-974-8059 代表取締役 平川 薫	工事名称	具志川運動公園多目的広場建設工事(建築)	管理者	設計者	担当者	図面名称	1階 梁伏図	図面NO
		工事場所	うるま市宇大田地内	日付	日付	日付	縮尺	図示	S - 06



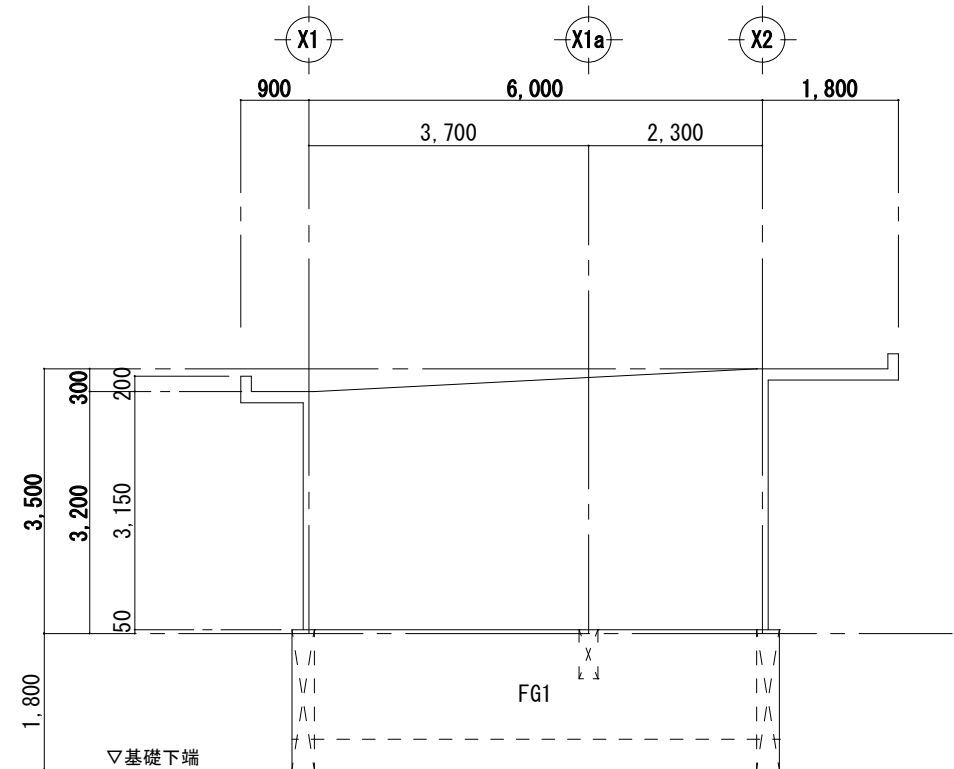
S - 07



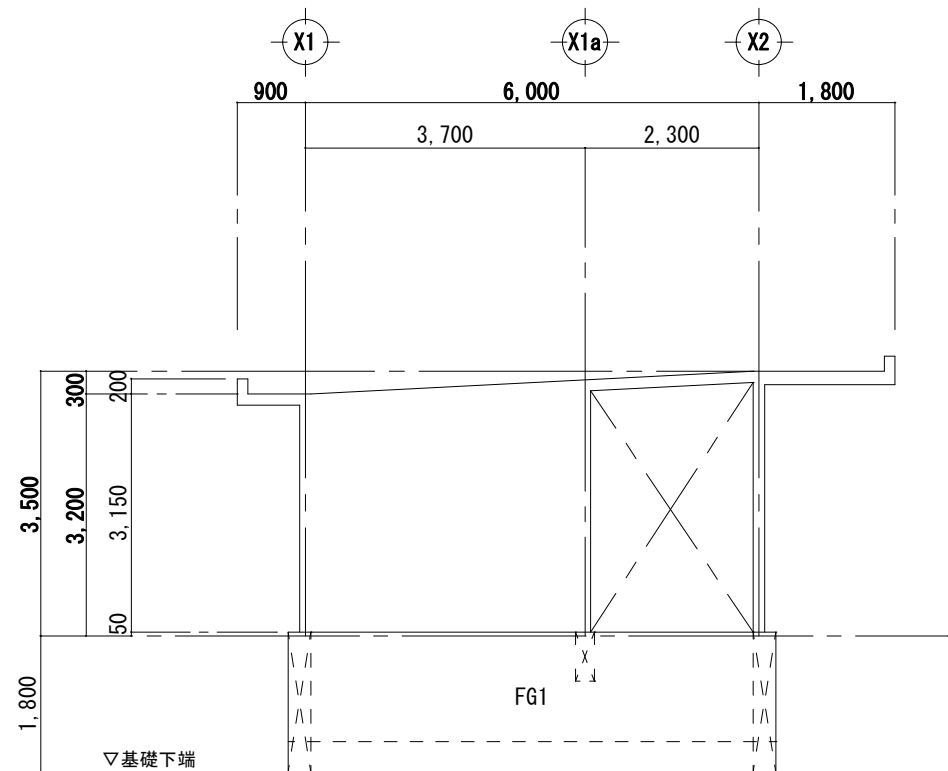
Y1通り軸組図 S:1/50(A-1) 1/100(A-3)



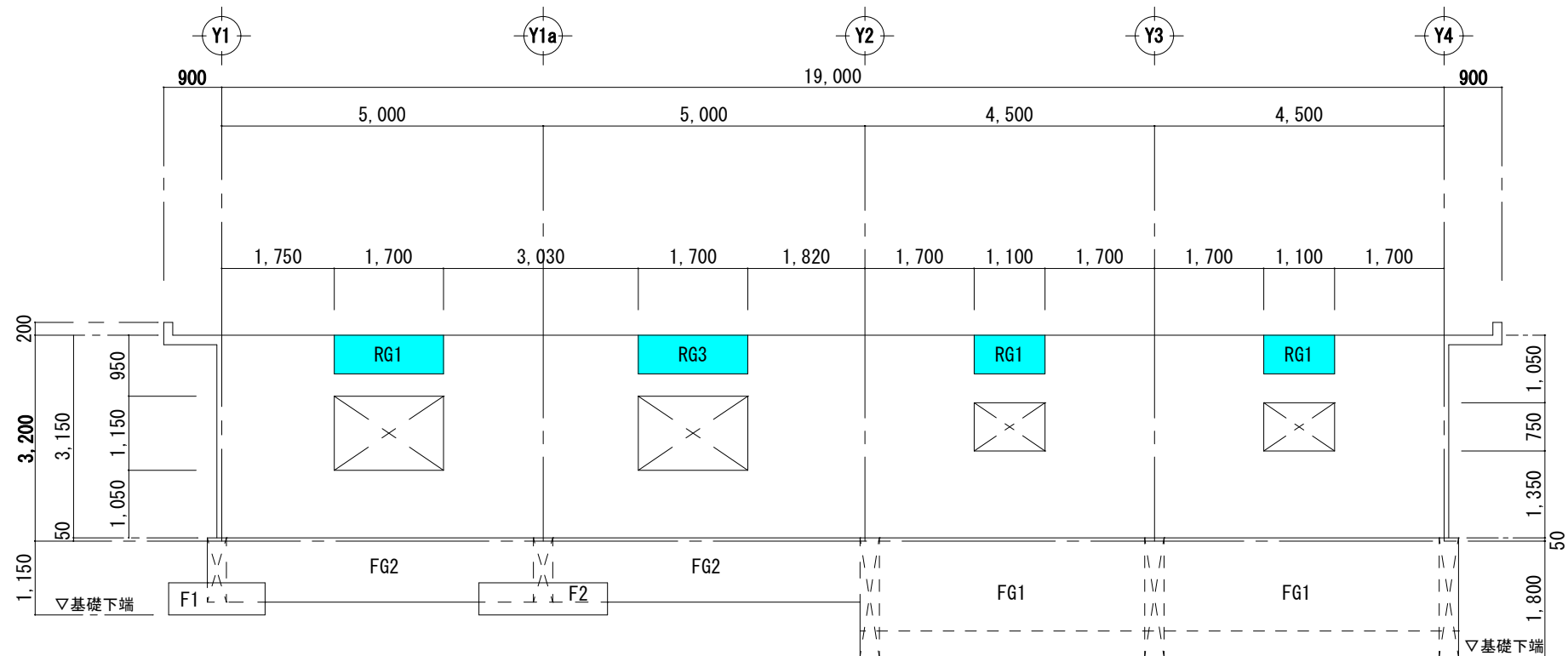
Y1a通り軸組図 S:1/50(A-1) 1/100(A-3)



Y2・Y4通り軸組図 S:1/50(A-1) 1/100(A-3)



Y3通り軸組図 S:1/50(A-1) 1/100(A-3)

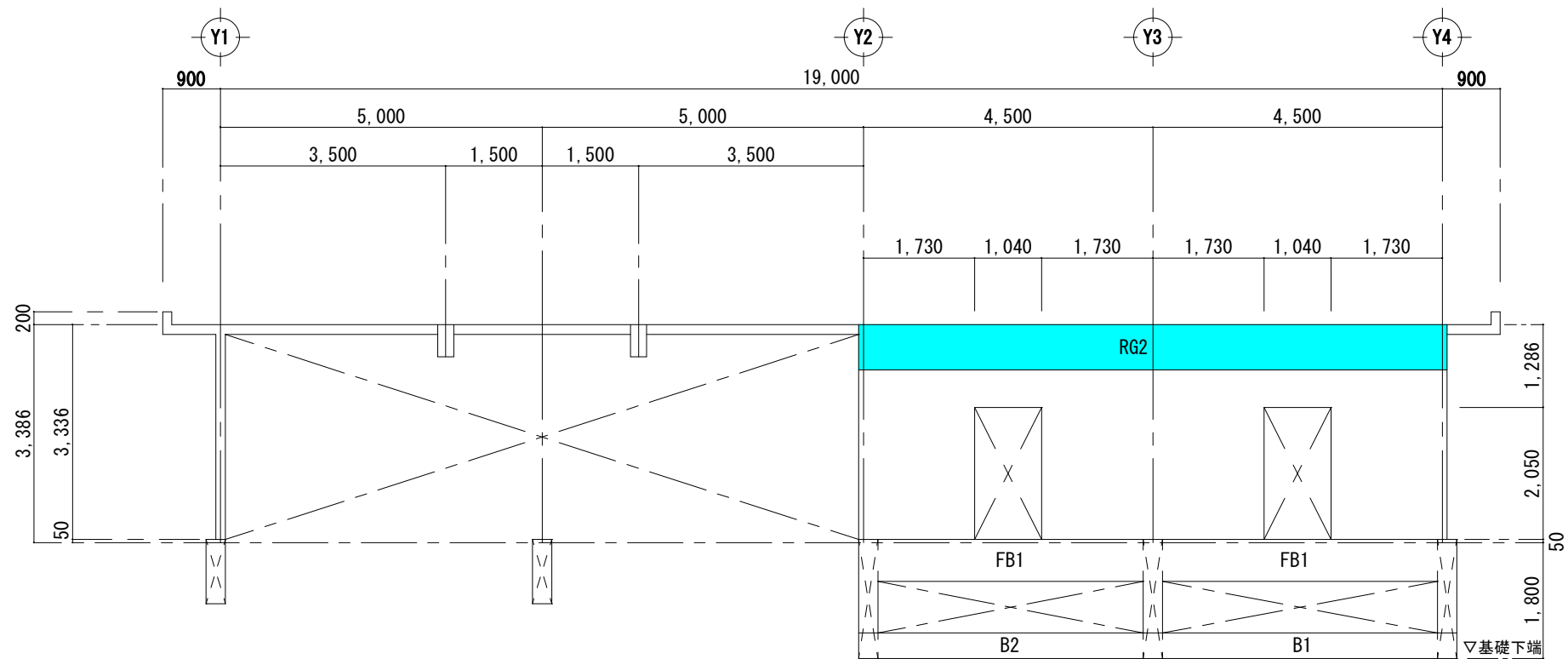


X1通り軸組図 S:1/50(A-1) 1/100(A-3)

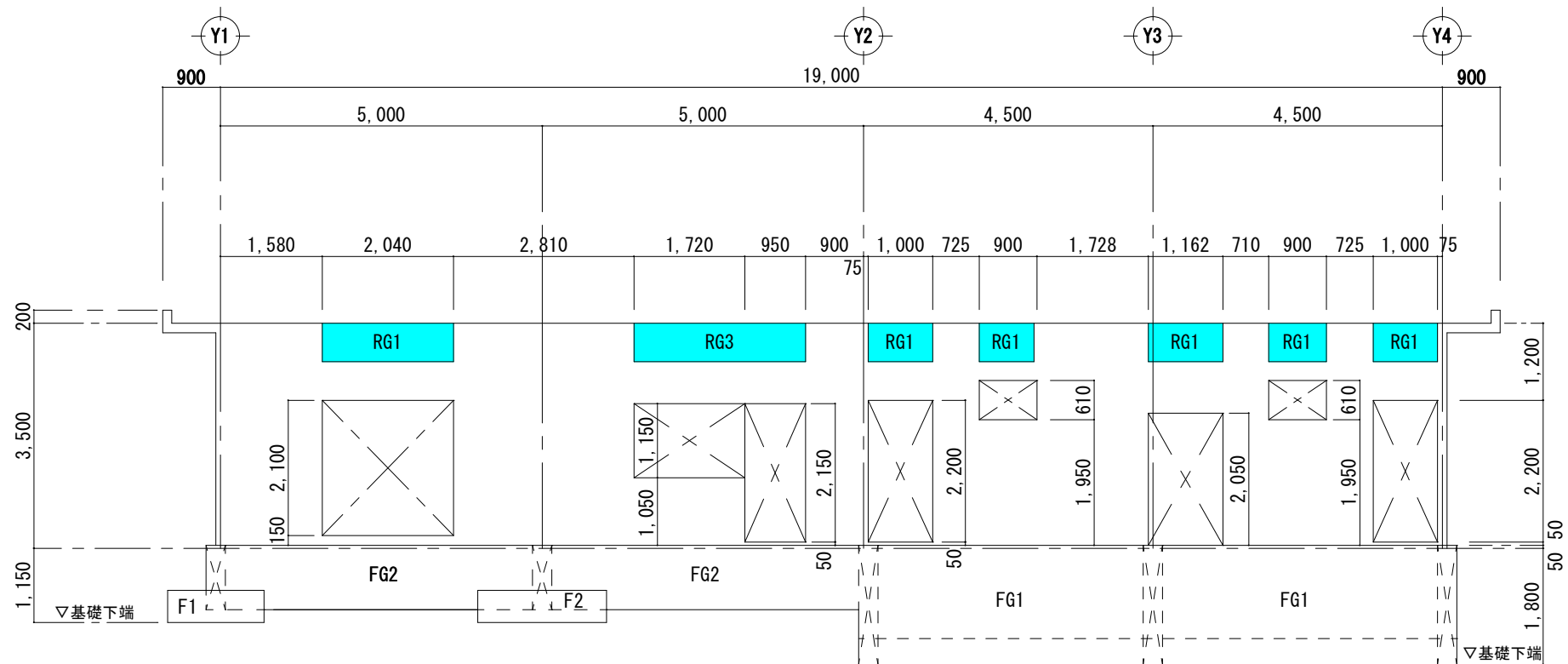
特記事項
・特記なき壁は、W15を示す。

構造設計
株式会社 創設計
伊波 克之
一級建築士 第224803号
構造設計一級建築士 第9039号

備考	 有限 三 成 工 業 会 社	TEL : 098-974-8001 沖縄県うるま市宇堅1322-1 TEL : 098-974-8059 代表取締役 平川 薫	工事名称	具志川運動公園多目的広場建設工事(建築)	管理者	設計者	担当者	図面名称	軸組図 (1)	図面NO
			工事場所	うるま市宇大田地内	日付	日付	日付	縮尺		
								図示		



X1a通り軸組図 S:1/50(A-1) 1/100(A-3)



X2通り軸組図 S:1/50(A-1) 1/100(A-3)

特記事項
・特記なき壁は、W15を示す。

構造設計	株式会社 創設計
	伊波 克之
	一級建築士 第224803号 構造設計一級建築士 第9039号

備考	 有限 三成工業	TEL : 098-974-8001 沖縄県うるま市宇堅1322-1 TEL : 098-974-8059 代表取締役 平川 薫	工事名称	具志川運動公園多目的広場建設工事(建築)	管理者	設計者	担当者	図面名称	軸組図 (2)	図面NO
			工事場所	うるま市宇大田地内	日付	日付	日付	縮尺	図示	S-09